

【主担当部局：地域連携部南部地域活性化局】

県民の皆さんとめざす姿（令和5年度末での到達目標）

東紀州地域は、多様で豊かな自然や歴史風土の中で、豊かでゆとりある暮らしが実現できる地域です。地域の人びとだけでなく、都市部の人びとにとっても魅力的な地域をめざして、地域のさまざまな主体が連携し、地域の自然や歴史と共に生きる暮らしを大切にしながら、地域経済が活性化され、持続可能な地域社会が維持されています。

主指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
東紀州地域における観光消費額の伸び率						112 以上
	100 (30 年度)					
目標項目の説明と令和2年度目標値の考え方						
目標項目の説明	観光旅行者が東紀州地域において支出した観光消費額の平成30（2018）年を100とした場合の伸び率					
2年度目標値の考え方						

副指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
熊野古道の来訪者数						430 千人
	331 千人 (30 年度)					
東紀州地域の事業者等が商品やサービスの改良、業務拡大に取り組んだ件数						160 件
	83 件 (30 年度)					

## 現状と課題

- ①東紀州地域では、過疎・高齢化の進行や若年層の流出などに伴い、県内でも特に人口減少が懸念されており、持続可能な地域社会の形成に向けた方策が求められています。
- ②伝統文化の担い手の高齢化が進み、その継承が危ぶまれつつあります。地域の大切な財産である伝統文化を次世代に継承し、地域の活力向上につなげるため、新たな担い手を発掘し、創出しようとする地域の機運醸成が必要となっています。
- ③令和元（2019）年度の熊野古道世界遺産登録 15 周年の取組により、従来の圏域や世代を越えた一体感が生まれ、交流人口の増加、地域の賑わいにつながってきています。こうした成果を一過性のものとせず、住む人にも訪れる人にも魅力的で個性豊かな地域づくりを進める必要があります。
- ④今後、国内旅行市場の縮小が懸念され、外国人旅行者の増加が見込まれる中、東紀州地域が選ばれる観光地となるために、旅行者のニーズを的確にとらえ、国内外からの誘客促進などの取組をさらに進める必要があります。
- ⑤東紀州地域は、地理的条件もあって地域経済が低迷しており、また、観光関連産業を含めた産業分野には小規模な事業者も多いことから、さまざまな主体が連携して、商機拡大に向けた取組を進めるなど、地域経済の活性化を図る必要があります。

## 令和 2 年度の取組方向

- ①持続可能な地域社会づくりに向けた基盤を整えるため、地域のコーディネーターとしての役割を担う東紀州地域振興公社を軸に、東紀州地域の観光振興、産業振興、まちづくりの取組を促進します。
- ②地域の伝統文化の担い手づくりに向けて、次世代を担う子どもや若者に、東紀州地域の生活の中に息づく価値や魅力を伝え、地域への誇りと愛着心を育む取組を進めます。
- ③東紀州地域ならではの地域資源を生かすとともに、熊野古道世界遺産登録 15 周年のネットワークを活用し、伊勢から熊野を結ぶ環境づくりなどに取り組みます。また、15 周年をきっかけに醸成された地域の一体感と想いを次の 20 周年につなげていくよう取り組みます。さらに、集客交流の拠点となる施設を十分に活用し、交流人口の拡大に取り組みます。
- ④東京 2020 オリンピック・パラリンピックなどのビッグイベントを生かし、国内外に向けて、熊野古道をはじめとする東紀州地域ならではの魅力の発信に取り組みます。また、東紀州地域における二次交通の利便性向上、新たな旅行需要の喚起などに向けて、外国人旅行者の受入環境整備に取り組みます。
- ⑤地域製品のブランド力強化や販路拡大など地域経済の活性化につながる取組を支援するとともに、観光関連産業が地域をけん引する産業となることをめざし、観光の産業化に向けて取り組みます。

## 主な事業

- ① 東紀州地域振興推進事業【基本事業名：25201 持続可能な地域社会に向けた基盤づくり】  
予算額：(R1) 3,655千円 → (R2) 10,255千円  
事業概要：持続可能な地域社会づくりに向けた基盤を整えるため、地域のコーディネーターの役割を担う東紀州地域振興公社を軸として、地域が一体となり、観光振興を中心に、産業振興、まちづくりを推進する取組を進めます。

#### 地域の誇り次世代継承プロジェクト事業

【基本事業名：25201 持続可能な地域社会に向けた基盤づくり】

予算額：(R1) 4,010千円 (R2) 3,208千円

事業概要：熊野古道や周辺地域の豊かな自然、歴史、文化等の価値を次世代に継承するため、東紀州地域の子どもたちが、熊野古道やその周辺の自然・歴史・文化等を体験し、地域の「本物」に触れることにより、地域への関心や理解を深める取組を実施します。

(一部新) Easy Access to 東紀州！プロジェクト推進事業

【基本事業名：25202 地域資源を生かした観光地域づくり】

予算額：(R1) 3,886千円 (R2) 10,688千円

事業概要：旅行者の周遊・滞在を促進するため、インターネットにつながる環境があれば、誰でも簡単に利用できる、多言語版「旅行プラン作成システム」を導入するほか、インバウンド向けのバスフリー切符を造成し、和歌山県の熊野三山エリアを周遊する外国人を三重県側へ引き込む仕組みを作ります。また、熊野古道世界遺産登録15周年の成果を20周年につなげるため、民泊等を活用したビジネス体制の構築、観光専門人材の育成、データ分析による観光戦略づくりの取組を進めます。

熊野古道活用促進事業【基本事業名：25202 地域資源を生かした観光地域づくり】

予算額：(R1) 13,060千円 (R2) 11,243千円

事業概要：熊野古道セミナー等により東紀州地域の魅力を発信するとともに、伊勢路ナビ等で伊勢から熊野までの観光スポットを紹介し、国内外からの誘客を図ります。また、欧米豪のインバウンド向けのプロモーションを展開し、熊野古道をはじめ東紀州地域の認知度向上を図り、誘客促進に取り組みます。さらに、道の覚書を締結したスペイン・バスク州と協力・連携し、情報発信と交流に取り組みます。

世界と結ぶ東紀州インバウンド事業【基本事業名：25202 地域資源を生かした観光地域づくり】

予算額：(R1) 9,380千円 (R2) 2,772千円

事業概要：世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を有する三重県・奈良県・和歌山県が連携し、インバウンドを県内外から東紀州地域へ周遊させる取組を行います。また、愛知県、中部経済連合会等と連携し、東京オリンピック・パラリンピックの開催にあわせて、欧米豪をターゲットとした情報発信・誘客促進に取り組みます。

東紀州地域集客交流推進事業【基本事業名：25202 地域資源を生かした観光地域づくり】

予算額：(R1) 69,550千円 (R2) 70,174千円

事業概要：熊野古道センターにおいて熊野古道を核とする企画展や地域と連携した交流イベントの開催等を行います。また、同センターの情報発信機能や案内機能のさらなる充実を図ります。

選ばれる東紀州地域を目指して産業活性化支援事業

【基本事業名：25203 地域資源を生かした産業振興】

予算額：(R1) 7,298千円 (R2) 11,259千円

事業概要：東紀州地域の市町や関係団体が連携して行う地域産品の高付加価値化や販路拡大等、選ばれる東紀州地域をめざす取組を支援します。また、観光サービスのブラッシュアップ等、来訪者の満足度の向上を図る取組を支援します。